

優良な協働事例の紹介②

～三股町社会福祉協議会が実践するCommunity Design LAB.～

三股町社会福祉協議会は、同協議会内にCommunity Design LAB.（コミュニティ デザイン ラボ（実践支援研究室））を設置し、地域住民と協働しながら様々な地域課題を解決しています。

今回、コミュニティ デザイン ラボについて、三股町社会福祉協議会の松崎亮さんにお話を伺いましたので、優良な協働事例として紹介します。

1. コミュニティ デザイン ラボとは

令和元年度に厚生労働省の「地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制構築事業」を活用して、三股町社会福祉協議会内にコミュニティ デザイン ラボ（以下「ラボ」）を組織化。

ラボは、「地域の課題」に即した「活動」と「プレイヤー」を生み出すことで、地域の困りごとを解決する、「協働の出会いの場」となっている。

〈これまで〉

住民さんの困りごと ⇒ 専門職による検討
(地域の課題)

専門職により検討。制度的なサービスがない場合は解決できなかった。



〈ラボ設置後〉

住民さんの困りごと ⇒ 専門職のみならず、地域住民が集まって検討
(地域の課題)

専門職だけでなく、地域住民が集まって話し合うので、制度的なサービスだけでなく、地域力を活かした様々な対応策が生み出される。

ラボが、地域住民が地域活動する上での
協働の出会いの場となっている。

2. ラボが実施する事業例

①comeking space co-me (コメーキングスペース コメ) の運営

コメーキングスペース コメ (以下「コメ」とは「come(来る)」、「making (創る)」、「co-me (米)」の意味で、米どころである三股町上米地区の個人商店をリノベーションした新たなスペースであり、このスペースが、ラボが活動する上での拠点となっている。

なお、リノベーションに当たっては、セレクトショップのオーナーなど地域住民が協働したことで、オシャレでモダンな雰囲気となっている。

コメでは、地域住民が集まっての「社会問題井戸端会議」や児童への学習支援 (森の子学習塾)、不登校児支援 (タテヨコナメ)、子ども食堂など様々な活動が展開されている。

また、コメでは、傾聴ボランティアの方を配置し、誰でもコーヒーや軽食をとりながら相談できるので、地域住民が気軽に利用しやすいものとなっている。



写真は三股町社会福祉協議会より提供

※コメ内には、全国のフリーペーパーを扱う
ただほんや
「只本屋宮崎三股店」も設置

②NEXUS COFFEE TIME PROJECT (ネクサス コーヒータイム プロジェクト)

コメで実施するいわゆる認知症カフェ。

一般的な認知症カフェは実施日が決まっており、認知症の方々とその家族だけが集まる場所となっているため、認知症の親を持つ子どもの世代などには敷居が高く、利用しづらい面があるが、このネクサス コーヒータイム プロジェクト（以下「ネクサス」）では、コメが開いているときはいつでも利用可能である。

なお、趣旨に賛同した地域の企業（4社）がコーヒーチケットを月150枚、12ヶ月分購入し、高齢者へ配布している。

そのため、認知症の方やその家族は好きな時間にコーヒーを飲みながら、認知症の人のみならず、地域住民とつながるきっかけを作ることができている。



(ネクサスの協働における役割分担)

地域の企業4社 ⇒ コーヒーチケット購入

CONNECT ⇒ 地域企業4社の開拓等

三股町地域包括支援センター ⇒ 高齢者支援

コミュニティ デザイン ラボ ⇒ コメの運営



上記のとおり、ネクサスは、ラボ（地域住民）、企業、行政（三股町地域包括支援センター）が万遍なく協働して運営に関与している。

なお、企業からは、チケット購入してもらっただけでなく、実際にカフェを利用してもらい、様々な提案も受けているとのこと。

3. 協働についてインタビュー（松崎氏）

①協働の長所

地域の方々や様々な分野で活躍しているの方々（デジタルやデザインに強い人など）など多様な人材が参入することで、予想もしなかったアイデアが生まれ、実行につながる。

②協働する上で苦労した点と対応策

協働事業に参加してもらう方に、どのように説明し、興味を持ってもらうか。そのためには、見せ方を抽象化するなどの工夫が重要である。

例えば、専門用語を用いた理解しづらい福祉分野の地域課題を、分かりやすくデザイン化することで、一般の方々も身近で共有すべき課題として捉えることができ、協働の主体として参加しやすくなる。

③協働について（全般）

興味を持っていただくための工夫次第で、地域に協働する相手はいくらでもいる。

協働するには、こちらから予めフレームをつくりはめ込むのではなく、各プレイヤーが自発的にアイデアを出し合える環境であることが重要。その結果、当初の想像以上のものができあがるのが協働の醍醐味である。

協働とは、たし算ではなく「かけ算」であると思う。



（三股町社会福祉協議会 松崎氏）